社会福祉法人 蓮花の会
令和６年度 事業報告

基　本　理　念

生まれ育ったこの町でこの町のみなさんと一緒に暮らしていきたい（生きたい）と願う当事者家族の思いに寄り添い、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを目指し地域福祉の向上に貢献します。

運　営　理　念

ひとりひとりの個性と可能性を尊重し、住み慣れた地域の中で安心・安全で快適な暮らしができるよう、心かよいあう安定した福祉サービスの提供のために、法令を遵守して健全な法人運営に努めます。

＜重　点　目　標＞

1　法人理念の浸透

毎朝のミーティング前に基本理念・運営理念及び７項目のスタッフの誓いの唱和を継続し法人理念の浸透に努めました。また、法人理念及び 7 項目のスタッフの誓いを基に作成した各サービス事業所理念を掲げています。

2　福祉人材の育成

重度化、多様化する障害特性への支援力向上を目的に、強度行動障害支援者養成基礎研修、及び実践研修への派遣や、各職能団体が開催する研修会、将来的なサービス管理責任者、児童発達支援管理責任者の育成を目指しサービス管理責任者基礎・実践研修会への受講を進めました。また、介護福祉士実務者研修の会場として法人２階交流室を貸し出し、当法人職員がスキルアップのために受講しやすい環境を整えました。

3　法令遵守

各福祉サービス事業所の人員配置基準や個別支援計画作成の手順の確認を随時行いました。介護給付費等の請求事務については、令和 6 年度報酬改定があったため各事業所の配置基準の見直しや、加算要件を確認し新たな体制を整えました。

4　啓発・広報

年間２回「蓮の実ニュース」を継続して発行しました。また、白石町役場の電光掲示板への広告を行いました。ホームページでは法人行事やブログを更新し、支援の様子などを発信しました。また、ケーブルワンにて法人や就労事業について取材を受けました。杵藤地区内で放送され、その後のマルシェ等においての販売促進に繋がりました。

5　組織機能の強化

改正社会福祉法に基づいた理事会・評議員会・監事監査会等を適正に開催し、組織統治体制を整備しました。また、税理士、社会保険労務士等の専門家によるチェック及び相談の体制の充実に努めました。

6　法人運営

1. 理事・監事会の開催　計 4 回
2. 評議員会の開催　計 2 回
3. 監事監査会の開催　計 1 回
4. 評議員選任・解任委員会 1 回
5. 衛生委員会　1 回／月
6. 虐待防止委員会　計 2 回
7. マネーージャー会議
8. サービス管理（提供）責任者会議
9. 職員全体会議　1 回／月

（2）財政基盤

① 地域活動支援センター事業収入　② 居宅介護事業収入
③ 重度訪問介護事業収入　④ 日中一時支援事業収入
⑤ 特定相談支援事業収入　⑥ 障害児相談支援事業収入
⑦ 生活介護事業収入　⑧ 共同生活援助事業収入
⑨ 短期入所事業収入　⑩ 放課後等デイサービスはなといろ事業収入
⑪ 就労継続支援 B 型事業収入　⑫ 放課後等デイサービスゆめきら事業収入
⑬ 児童発達支援事業収入　⑭ 移動支援事業収入
⑮ 寄付金等収入

（3）市・町受託金・補助金等

・地域活動支援センター事業	白石町	4,750,000 円
・日中一時支援事業	2 町 3 市	5,740,677 円
・移動支援事業	2 町	1,069,402 円
・高齢者配食サービス事業	白石町	12,807,200 円

（4）その他の補助金・助成金等を積極的に申請して法人運営に活用しました。

・白石町手をつなぐ育成会	25,000 円
・生きがい活動支援補助金（町社会福祉協議会）	50,000 円
・佐賀県共同募金会活動助成金	20,800 円
・職業安定局雇用助成金	1,120,000 円
・佐賀県障害福祉施設整備補助金	33,100,000 円

7　利用環境の向上

(1)　マスクの着用や手指消毒、室内の換気を励行しました。また、利用者、職員に体調不良等がみられた場合に検査キットを常備しました。

(2)　溝上薬局（そいよかね号）移動販売サービスの提携を行いました。第 2・4 木曜日に販売に来られています。日頃買い物ができない利用者も思い思いの買い物を楽しまれています。

(3)　利用者、利用者家族、地域の住民の方との交流を目的に、蓮花の会秋祭りを開催しました。約 350 名の方が参加されました。

(4)　新拓地区のサロンの場所を提供しました。第 2・4 週の水曜日に本体施設 2 階交流室にて介護予防体操を実施されています。

(5)　グループホーム「ほっとハウス福田」の開設準備を行い、令和 7 年 4 月より運営を開始しました。

令和６年度　地域活動支援センター事業報告（案）

1　事業運営基本計画

利用者が生まれ育った地域で、楽しく豊かに暮らすことが出来るよう、日中活動において、それぞれの障害特性に応じた排泄・食事等の必要な支援を実施しました。併せて生産活動の機会の提供を通して就労への意欲を喚起し、社会との交流を促進するとともに、一人ひとりの個性を尊重した事業経営に努めました。

2　利用者の処遇

利用者個々の障害特性に応じた軽作業を検討し、働く事の意義と楽しさを知って貰う事で、心身の活性化と日常生活動作の向上に繋げました。また、季節ごとの行事を取り入れ、他者と交流できるよう支援いたしました。

3　利用者の実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	32	34	28	35	9	23	33	27	6	7	32	23

年間延べ利用者数 289 人　　月平均利用者数 24.1 人　１日平均利用者数 1.2 人

4　健康管理

毎利用の始めに体温と血圧の測定を行い、感染予防対策として手指消毒、マスク着用、アルコール消毒、室内の換気など徹底しました。

5　防災計画

年２回、令和６年７月 31 日、令和７年２月 20 日、施設内他事業と合同で火災を想定した避難誘導訓練及び災害を想定した避難訓練を実施し、避難誘導訓練や避難経路の確認を行いました。

6　日課

サービス提供時間（土・日・祝祭日を除く　9：30 から 15：30）において、利用者の体調等を考慮して作業内容を検討し、缶回収、ＪＡ作業（お茶の箱作り）、ボタン入れ、弁当配達など無理がない程度の日中活動を提供し、希望される方は入浴も提供しました。

7　職員研修

内部、外部の研修等に積極的に参加して、職員会議等で伝達・報告し、事業所全体の資質の向上とサービス向上に努めました。

令和6年度　居宅介護事業報告（案）

１．基本業務の内容

利用者が自宅において、安心、安全に過ごすことができるように時間を厳守して訪問しました。朝の支度や、入浴等の身体介護及び調理等の家事援助を実施しました。
また、一人で病院等を受診できない方や外出に支援が必要な方は、福祉有償運送車両を用いて安全運転で目的地まで送るよう努めました。家族と顔を合わせる機会が少ない利用者には、家族と事業所間の連絡帳を作成して利用者の様子を報告するなど家族との連携に努めました。

２．利用者の処遇

利用者が出来ることは、自発的に行っていただけるように、自信が持てるような言葉かけに留意した支援を行い、これまで過ごして来られた生活習慣を大切にし、課題が見えた場合には、会議等で検討、より良い支援につなげることで利用者に安心と信頼を得られるよう努めました。

３．健康管理

毎回、サービスを利用の際に、本人もしくは家族に体調や生活面の様子を伺い、変化等がある場合は、記録に残しました。検温、手指消毒、マスク着用、アルコール消毒など徹底しました。

４．利用実績（人数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身体介護	3	3	4	3	2								15
重度訪問介護	1	1	1	1	1								5
家事支援	4	4	4	4	2								18
外出支援	12	11	11	11	13	10	11	8	9	6	10	7	119
通　　院	14	15	15	12	13								69
延利用人数	34	34	35	31	31	10	11	8	9	6	10	7	226

※延べ利用者人数は前年度比-　（－222人）

５．移動支援

福祉有償運送により、通院及び外出等の支援を行ないました。令和6年度は、延べ365回の利用があり、5,469ｋｍ走行しました。

６．サービス提供時間

午前７時３０分からの利用される方や夜間の相談も多く、利用者がいつでも連絡できるよう専用の携帯電話を窓口として２４時間体制で行いました。

７．資金報告

通常の運営費は、介護給付費、利用者負担金収入で賄いました。

８．令和6年8月末で居宅介護が休止になりました。現在は外出支援のみ行っております。

令和６年度　生活介護事業報告（案）

１　事業運営の基本方針

利用者が自立した日常生活または社会生活を営む事ができるよう、入浴・排泄・食事の介助、創作的活動等の機会を設け他者との交流の場の提供に繋げました。
住み慣れた地域で今後も生活していけるようにきめ細やかな支援をすると共に、個人の個性を尊重した事業運営に努めました。

２　利用者の処遇

利用者の基本的人権を尊重し、常に利用者の立場に立って心身の健康保持と身体機能の向上に向けた支援を行いました。入浴支援には特に力を入れ、清潔保持とリラックスできる時間の提供を行うと共に、個々の要望に添えるようまた安全かつ自立に繋がる支援を行いました。

３　健康管理

毎朝、利用始めにバイタルチェックを実施し、体調不良及び身体に変化がある場合は看護師と協力しながら対応し、必要に応じて個室での状態観察も行いました。また嘱託医による月１回の往診、健康相談を実施しています。感染予防対策として嗽や日常の手洗いと室内の換気の励行をこまめに行い､体温チェック表を各家庭にお渡しし、ご家庭にも協力を仰ぎ定期的な体温の観察を行っています｡GH の利用者が感染症に罹患した際は、本体施設２階にて個別で対応し感染拡大防止に努め支援を行いました。

４　防災計画

火災を想定した避難訓練を令和６年７月 31 日（水）と令和７年２月 20 日（木）に実施しました。

５　人材育成と専門性の向上

職員の育成に向け、内部・外部研修に参加して事業所職員全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。

【職員研修】…外部研修

・9/12、9/13　強度行動障害支援者養成研修(基礎)
・9/24　部下の力を引き出すコミュニケーション
・9/28、9/29　第２回移動サービス認定運転者講習
・9/30　九州ブロック社会福祉法人経営青年会セミナー　長崎大会
・1/28～1/30　佐賀県サービス管理責任者児童発達支援管理責任者実践研修
・2/22　HUG HUG 研修会　障害者の性について

【職員研修】…内部研修

・4/24　強度行動障害児者の理解と支援について
・6/26　障害者福祉施設における障害者虐待の防止と対応研修
　　感染症における BCP についての研修、訓練
・8/21　災害 BCP 研修および訓練　　・9/14　虐待防止・権利擁護研修

・11/21　個別支援計画等における短期、長期目標設定と支援の在り方
・12/23　感染症 BCP に関する研修及び訓練・3/26　処遇改善の為の業務効率化について

6　年間スケジュール　　※誕生会、帰りの会参加ご褒美会は毎月実施しています。
・4 月…入所式、カラオケ大会、おやつ作り　・5 月…おやつ作り、カラオケ大会
・6 月…あじさい見学ドライブ　・7 月…七夕飾り作り　・8 月…夏祭り　・11 月…秋祭り　・12 月…クリスマス会、餅つき　・1 月…新年会・初詣　2 月…節分豆まき

7　利用実績

	月/区分	2	3	4	5	6	計
令和6年	4 月	0	0	66	125	158	349
	5 月	0	0	73	127	166	366
	6 月	0	0	60	101	152	313
	7 月	0	0	70	126	158	354
	8 月	0	0	57	93	140	290
	9 月	0	0	48	136	154	338
	10 月	0	0	49	138	165	352
	11 月	0	0	50	125	157	332
	12 月	0	0	30	103	142	275
令和7年	1 月	0	0	33	134	139	306
	2 月	0	0	36	126	141	303
	3 月	0	0	43	140	159	342
利用者延数(A)		0	0	615	1474	1831	3920
令和5年度(B)		0	120	716	1394	2243	4473
増　減 (A-B)		0	−120	−101	+80	−412	−553

市町村別利用者数
（令和 7 年 3 月 31 日現在）

市町村	人数
白石町	15
江北町	1
大町市	4
嬉野市	2
武雄市	1
鹿島市	0
小城市	1
計	24

年齢別利用者数
（令和 7 年 3 月 31 日現在）

年齢	人数
19～25	8
26～30	4
31～40	5
41～50	2
51～60	3
61～65	1
66～70	1
計	24

※利用者の 84.3%は障害支援区分５または６を有し、日常的にマンツーマン支援をしています。（昨年度は 81.3%）

令和６年度　（障害者・障害児）指定特定相談支援事業報告（案）

1　事業の目的である“常に利用者（児）の立場に立って、利用者（児）や家族が望む自立した日常生活又は社会生活ができるように、障害福祉サービス事業所等との連携を図り、利用者が暮らしやすい計画相談（サービス等利用計画・障害児利用支援計画）の提供の確保”に努めました。

2　特定相談支援事業所運の実の理念である“寄り添い、ともに歩く”を具現化できるように利用者（児）が関わっている様々な機関で、様子を見せてもらいお話を伺いました。又、利用者（児）や家族等の願いや暮らしを実現できるような計画を立てて、支援を提供してくれる事業所等を探して繋げました。小学校に入学される方は入学式前に関係者に集まってもらい移行支援会議を行いました。必要に応じて利用者や児童の支援会議を開催しました。意思や訪問看護等の医療関係の方との支援会議も行いました。
　また、令和6年度に前任の相談支援専門員が退職され、別事業所に移動された事に伴い、本人及び保護者の意向で71名が事業所変更を希望され移動されました。

3 サービス等利用計画（18歳以上）作成件数及びモニタリング件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	4	4	10	2	2	2	4	6	4	2	5	3	48
モニタリング	17	15	14	15	10	10	5	8	9	7	9	10	129
合計	21	19	24	17	12	12	9	14	13	9	14	13	177

※ 令和6年度末時点　計画相談対応　障害者42名

4 障害児支援利用計画（18歳未満）作成件数及びモニタリング件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	6	8	7	17	6	6	1	10	1	9	8	11	90
モニタリング	28	34	32	17	6	6	5	7	5	8	12	10	170
合計	34	42	39	34	12	12	6	17	6	17	20	21	260

※ 令和6年度末時点　計画相談対応　障害児68名

5 研修会、自立支援協議会等

研修内容	開催日
自立支援協議会　全体会	4月12日、9月13日、10月18日、2月14日
自立支援協議会　相談支援部会	4月16日、5月14日、11月12日、1月14日、2月18日
県協議会　人材育成部会・全体会	5月20日、6月24日、10月7日、11月25日、2月19日
強度行動障害支援者養成研修　基礎研修	5月27日28日
相談支援従事者初任者研修	9月17日、18日
相談支援従事者主任研修（九州ブロック）	9月24日～26日
専門コース別研修	1月23日、24日

令和６年度　共同生活援助事業報告（案）

１　業務報告

利用者が安心して穏やかに暮らすことができるよう、家庭的な雰囲気作りに努めました。利用者とのコミュニケーションを図り、利用者の自己選択、自己決定を大切にした支援を心掛けました。ホームの理念に添い、温かいホームで、楽しい共同生活を送る事が出来るよう努めました。

個別支援として、買い物の支援や外出、外食等、入居者の希望を聞きながら、出来るだけ実施するよう努めました。

＊コロナ及びインフルエンザ感染について

感染防止のため施設内の除菌や手指消毒等に努めました。6 年 7 月 23 日～30 日入居者２名がコロナに感染され、12 月 21 日～インフルエンザ 2 人　7 年 1 月 20 日～インフルエンザ３人、２回目の感染。いずれも本体施設に移動していただき支援を行いました。隔離を実施するのは職員確保の問題や、また環境を変えることは利用者の負担は大きくなりますが、感染の拡大防止のためには致し方なかったと考えます。

2　利用者の処遇

利用者の心身の状況や、ひとり一人の個性を尊重し、また家族の意向を確認して、個別支援計画を作成しました。その計画に基づき、チームで統一した支援を実践するように毎月の支援会議で申し合わせを行いました。利用者が介護を受けるだけにならず、本人が出来ることを見つけ、毎日の掃除機かけ、洗濯物干しや洗濯物たたみ、コップ洗い等職員とともに実行することで、出来る事をふやしていく取り組みをしました。

3　健康管理

毎朝、バイタル測定を実施し、異常の早期発見に努めました。週ごとに朝、夕の献立を作成し、バランスの取れた消化の良い食事の提供に努めました。誤嚥防止や咀嚼力により個々に合わせた食事形態に配慮しました。また増加しがちな体重管理の為、野菜中心のメニューを作成し提供しました。年間を通じてコロナウィルスやインフルエンザ感染防止の為、手洗い、消毒、施設内の除菌作業を毎日行いました。

４　環境の整備

日頃から清掃、換気に努め清潔な環境で気持ち良く生活が出来るよう配慮しました。衣類は毎日、リネンは毎週洗濯し快適な暮らしに向け努めました。

５　防災計画

防災計画を作成すると共に、7 月と 2 月の 20 時に災害時避難訓練を実施しました。利用者へは事前に知らせることなく実施しましたが、回数を重ねるごとに短時間でスムーズな避難ができています。避難に関わる必要物品や備蓄も準備しています。

６　人材育成と専門性の向上

職員全体会議やスタッフ会議への参加を促し、個人のスキルアップと職員間で統一したケアが出来るように報告、連絡、相談に努めました。強度行動障害支援加算を算定しており、加算条件となっている研修へ参加しました。

＊6 年度職員研修参加状況

〈法人外研修〉

6/5/27・28	佐賀県強度行動障害支援者養成研修	今福和絵
6/7/30・31	佐賀県強度行動障害支援者養成研修	今福和絵
6/10/30	佐賀県相談支援従事者初任者研修	今福和絵
7/3/27	障害者サービス従事者向け障害者虐待に関する研修会	今福和絵

〈法人内研修〉

6/4/24	強度行動障害の理解と支援　講師；溝上理事長
6/6/26	障害者虐待の防止と対応　感染症における BCP について
6/8/21	自然災害発生時における業務継続計画
6/9/14	虐待事例から見る適切な支援に向けたケースマネジメント
6/11/21	個別支援計画等における短期、長期目標設定と支援の在り方
6/12/23	感染症 BCP に関する研修及び訓練
7/2/22	障害と性について　（重心ネット　HUGHUG）
7/3/26	処遇改善のための業務効率化について

7　入退居報告　　退居者　2 名　　入居者　2 名　　6 床満床

令和６年度　短期入所事業報告（案）

１　業務報告

利用者が安心して宿泊することができるよう、家庭的な雰囲気作りに努め、保護者や関係機関との連携を密にして自立に向けた支援に努めました。

２　利用者の処遇

利用者一人ひとりの心身の状況に応じ、職員が手を出し過ぎず日常生活上の必要な支援を考慮して利用の ADL の向上に努めました。利用者ごとに支援目標を定め、個々のニーズに添った支援が出来るよう職員はケアの統一に努めました。

３　健康管理

利用者のし好調査を行いつつ、バランスと消化の良い食事の提供に努め、来所時と起床時の健康チェックを行い体調の変化に留意しました。5 年度もコロナウィルスの感染防止のため、手洗い、消毒に努め、施設内の除菌作業を毎日実施しました。

４　環境の整備

施設内の美化と利用者の身の回りの整理整頓に努め、衣類等は入浴後に洗濯し、終了時は清潔な衣類を返却しています。快適な環境で過ごせるよう換気、通気に気を配り空調の管理を行いました。

５　災害避難訓練の実施

防災計画にそって年２回、夜間避難誘導訓練を実施しました。（７月・　２月）

６　人材育成と専門性の向上

スタッフ会議や職員全体会議に参加して、個人のスキルアップと共に伝達研修や報告会を通して事業所全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。

令和　６年度 短期入所利用実績

月	利用者数(人)	利用日数(日)	利用延べ日数(日)
4	17	50	104
5	14	50	106
6	15	49	101
7	15	42	87
8	16	52	108
9	17	55	112
10	15	54	114
11	16	53	110
12	16	37	80
1	16	45	93
2	15	51	104
3	16	50	108
合計	188	588	1227
平均	15	49	102
昨年度実績	15	44	93

令和６年度　放課後等デイサービスはなといろ事業報告（案）

１．事業運営の基本計画

障害をもつ児童に対し、放課後及び土曜、祝日や長期休業時などに、生活能力の向上に必要な訓練、社会交流、コミュニケーション能力向上への支援を行いました。また、特性に応じた環境調整により安心して過ごせる空間作りを行ったり、児童が成功体験を積むことが出来るような活動を計画したりしました。

支援の質が低下しないように、個別支援計画作成手順を遵守し、職員全体で支援の目標や方法を共有できるように努めました。

２．利用者の処遇

保育士、児童指導員を配置し支援にあたりました。令和５年３月より定員１０名となり、それぞれの特性に応じた環境調整を行い手厚く支援ができる環境を提供し、日常生活動作訓練や、学習課題、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上（ルール理解）等を行いながら、休日などの一日利用時には行事を計画し余暇時間の充実を図りました。

３．研修計画

施設内全体研修では、講師を招いて研修を行いました。施設外研修としては行政が主催する研修会、各団体などが開催している研修会に積極的に参加しました。研修に参加した職員が学んだことを、事業所内ミーティングや全体会議等で他職員にも報告することで、特性理解や支援技術の向上へと繋げました。

４．健康管理

保護者様や学校担任への体調等の聴取は随時実施しました。利用開始時には体温測定などのバイタルチェックを行いました。

衛生管理面にも配慮し、来所時の手洗い・消毒、食事やおやつ前の手洗いを実施しました。新型コロナウィルス感染予防対策としては、各家庭に感染症予防対策への協力依頼のお便りを配布、日頃より各家庭にて朝昼夜の検温を徹底していただき、利用時に検温表のチェックを行いました。また、玩具や机などの備品の消毒、室内換気、利用児童へのマスク着用の促しを行いました。

５．防災計画

令和６年７月 31 日㈬午前 11 時 00 分に本体施設生活介護（浴室）より漏電による火災が発生、令和７年２月 20 日㈭午前 11 時 00 分に乾燥小屋より漏電による火災が発生したという想定にて、２回避難誘導訓練を実施しました。

６．日課

学校からの送迎後、手洗い・消毒、バイタルチェックを行い、個別支援計画に沿った課題や訓練を実施しました。特性に応じて個室で宿題等をしたり、知育ゲーム・玩具を友達と一緒に楽しまれたり、外に出て集団遊びをしたり、各々が好きなことをして過ごせるようになりました。

７．実績

① 利用契約児童数（定員 10 名）

小学部	中学部	高等部
24 名	6 名	4 名

8. 利用実績児童数（令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月）

令和 5 年 3 月より定員 10 名

年　月	延べ利用者数	1 日平均利用数
令和 6 年 4 月	252 名	9.69 名
令和 6 年 5 月	266 名	9.85 名
令和 6 年 6 月	264 名	10.56 名
令和 6 年 7 月	268 名	9.92 名
令和 6 年 8 月	227 名	9.86 名
令和 6 年 9 月	230 名	9.2 名
令和 6 年 10 月	261 名	9.66 名
令和 6 年 11 月	242 名	9.68 名
令和 6 年 12 月	213 名	8.87 名
令和 7 年 1 月	223 名	9.29 名
令和 7 年 2 月	230 名	9.58 名
令和 7 年 3 月	263 名	10.11 名
	合計　2939 名	平均　9.7 名

令和６年度　就労継続支援Ｂ型事業報告（案）

1. 事業運営の基本計画

一般就労が困難である利用者に対して就労の機会を提供し生産活動やその他の活動を通じて、ひとりひとりの個性を尊重し地域における生活の充実と社会的自立の支援に努めました。

2. 利用者の処遇

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日		25	27	26	26	24	26	27	26	24	24	25	26	306
利用者	延べ人数	265	266	253	258	225	256	273	259	239	242	239	266	3,041
	1日平均	11	10	10	10	9	10	10	10	10	10	10	10	

工賃	総支払額	260,911	268,000	259,140	518,835	229,673	258,930	281,935	258,014	486,407	232,521	235,549	271,410	¥3,561,325
	月額工賃支給者数	15	14	14	13	15	14	15	14	14	15	15	15	

※7月・１２月は賞与を含む

利用者の立場に立ち心身の健康保持と生産活動の能力向上に努めました。

平均工賃は、目標を達成し 29,384 円でした。

余暇活動は施設全体行事の新年会、入所式、蓮の実祭り、クリスマス会を行い、1 月には祐徳稲荷神社へ初詣に出かけました。

3. 生産活動

①弁当事業・配食サービス（手作り弁当）

弁当･配食		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
弁当	個数/月	3,325	3,408	3,157	3,676	2,744	3,240	3,523	2,981	2,641	2,748	2,663	3,125	37,231	3,103
	1日平均	133	126	121	141	114	125	130	115	110	115	107	120	1,457	121
配食	個数/月	1,151	1,225	1,142	1,244	968	1,035	1,122	977	870	827	837	797	12,195	1016
	1日平均	46	45	44	48	40	40	42	38	36	34	33	31	477	40

弁当・配食事業は、お客様のニーズに出来る限り対応した弁当を提供しました。

お弁当の総数は 37,231 個、一日平均 121 個でした。前年比 2,243 個の増でした。

配食の総数は 12,195 個で一日平均 40 個でした。前年比 457 個の増でした。

厨房では野菜の皮むきや刻み、盛り付け、洗浄などの作業を行いました。また地域への弁当配達にも行き、地域の方との交流も行いました。

②内職（JA 葬祭用ギフト作業・日本文教センター）

JA 葬祭用ギフト作業は、前年比 1,100 個の増でした。

内職	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均/月
JAセレモニー	2,500	2,700	2,800	2,300	2,200	1,900	2,200	2,900	2,900	2,600	3,500	4,100	32,600	2,717
日本文教センター	27,000	16,797	7,566	2,015	0	0	24,200	27,800	10,600	19,685	11,581	2,002	149,246	12,437

③自　主　製　品（加工食品・ドライフルーツ製造・販売）

施設敷地内で胡椒（唐辛子）を栽培・収穫し、柚子胡椒に加工して、道の駅や直売所へ納品し、嬉野 八十八（うれしの やどや）には、ドライフルーツを納品しました。

白石町内で行われた、ぺったんこ祭り、金魚市、昼市（月 1 回）に出店

共同受注窓口主催のマルシェに出店

笑顔ｄｅさいこうマルシェ in 県民ホール

笑顔ｄｅさいこうマルシェ in 九州陶磁文化館

笑顔 de さいこうマルシェ in 佐賀県農協会館

佐賀さいこうフェス 2024（笑顔 de さいこうマルシェ）

④そ の 他 作 業（空き缶・古紙回収）

地域を定期的に回って空き缶・古紙回収作業を行いました。

4. 防災訓練

火災を想定した避難訓練を他事業と合同で令和 6 年 7 月 31 日（水）、令和 7 年 2 月 20 日（木）に行いました。

5. 人材教育と専門性の向上

内部、外部の研修に参加し、職員全体会議で伝達報告を実施する事により事業全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。

R6.4.24	強度行動障害児者の理解と支援について
R6.6.26	障害者福祉施設における障害者虐待の防止と対応
	感染症における BCP について　研修と訓練
R6.8.21	災害 BCP 研修及び訓練（心肺蘇生、AED）
R6.9.14	令和６年度虐待防止権利擁護研修
R6.11.21	講義 個別支援計画等における短期、長期目標設定と支援の在り方
R6.12.23	感染症 BCP に関する研修及び訓練
R7.3.26	処遇改善の為の業務効率化について

令和６年度　児童発達支援事業ほっぷ・すてっぷ事業報告（案）

1. 事業運営の基本方針

児童が日常的基本動作を習得し、集団生活に適応することができるよう、児童の心身及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的な指導及び訓練を行いました。

2. 利用児童の処遇

保育士、社会福祉士の専門職を含めた職員を配置し支援にあたりました。日常生活動作訓練や個別訓練、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上等を身につけることへの支援を行いました。

3. 健康管理

保護者に児童の体調等を提供記録に記入して頂き、また保育園に迎えに行った際、担任へ登園時からの体調等の聴取を実施しました。利用開始時には体温測定などのバイタルチェックを行いました。衛生管理面にも配慮し、来所後、食事の手洗い実施や、室内の換気などこまめに行いました。感染予防対策としては、各家庭にて来所前日の夜、来所日の朝の体温チェックのご協力をして頂きました。事業所でも来所時と昼に体温測定を行い、玩具、机などの備品は消毒を行い、清潔を保つように努めました。

4. 防災計画

令和６年７月 22 日（月）23 日（火）25 日（木）26 日（金）31 日（水）生活介護浴室から火災を想定した訓練を実施しました。又、令和７年２月 17 日（月）18 日（火）19 日（水）20 日（木）、２月 21 日（金）は、乾燥小屋火災を想定した避難訓練を実施しました。

5. 日課

保育園への送迎後、バイタルチェック、朝の準備、排泄、手洗いを行い、個別支援計画に沿った訓練を実施しました。前年度からリズム運動を取り入れ、体のバランス感覚や体幹を鍛えていく運動をしました。朝の会は年齢に応じた活動を行い、椅子に座る練習をしました。また個別訓練を行う事で、苦手な課題を克服できるよう支援しました。屋外活動を取り入れ、社会性やルールを学ぶ練習をしました。

6. 研修参加実績

・発達障害支援サポーター養成研修会
・現地研修～他事業所における療育のあり方～
・学童期の発達障害児支援の実際

7. 実績

①利用契約児童数　　契約児童総数 36 名

未満児（3 歳以下）	年少児	年中児	年長児
4 名	4 名	15 名	13 名

②利用実績児童数（令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月）定員 10 名

年　月	開所日	延べ利用児数	1 日平均利用数
令和 6 年 4 月	21 日	100 名	4.8 名
令和 6 年 5 月	21 日	105 名	5 名
令和 6 年 6 月	20 日	108 名	5.4 名
令和 6 年 7 月	22 日	129 名	5.8 名
令和 6 年 8 月	16 日	98 名	6.1 名
令和 6 年 9 月	19 日	115 名	6 名
令和 6 年 10 月	22 日	149 名	6.7 名
令和 6 年 11 月	20 日	141 名	7 名
令和 6 年 12 月	19 日	140 名	7.3 名
令和 7 年 1 月	19 日	136 名	7.1 名
令和 7 年 2 月	18 日	107 名	6 名
令和 7 年 3 月	20 日	134 名	6.7 名
	合計　237 日	合計　1462 名	平均　6.15 名

令和６年度　放課後等デイサービスゆめきら事業報告（案）

１．事業運営の基本計画

障害をもつ児童に対し、放課後及び土曜、祝日や長期休業時などに、生活能力の向上に必要な訓練、社会交流、コミュニケーション能力向上を目的に支援を行いました。5領域を取り入れた支援計画を作成し「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」を踏まえて総合的に支援を行いました。また、特性に応じた環境調整により安心して過ごせる空間作りを行い、児童が成功体験を積むことが出来るような活動を計画しました。

支援の質の向上のためにチームでの支援が行えるように業務開始前後のミーティングや会議で情報の共有を行いました。

２．利用者の処遇

保育士、児童指導員等の専門職を含めた職員を配置し支援にあたりました。

日常生活動作訓練や学習課題、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上（ルール理解）等を行い個別の課題にあった学習訓練を実施し、活動などを通して個別訓練や集団訓練も行いました。平日の夕方や休日などの一日利用時には行事を計画し、屋外活動を取り入れながら地域との交流を図ったり余暇活動を楽しんだりする機会を設けました。

３．研修計画

① 法人内での研修会や全体会議（月１回）に出席
（虐待防止・感染症対策・災害対策・身体拘束適正化を含む）
② 自立支援協議会に参加し地域との連携や情報共有の実施
③ 新任研修の実施

４．健康管理

衛生管理面にも配慮し、来所時の手洗い・消毒、食事やおやつ前の手洗いを実施しました。新型コロナウィルス・インフルエンザ感染予防対策としては、各家庭に感染症予防対策への協力依頼のお便りを配布、日頃より各家庭にて朝昼夜の検温を徹底していただき、利用時に検温表のチェックを行いました。また、玩具や机などの備品の消毒、室内換気、利用児童へのマスク着用の促しを行い、児童に対しても感染症対策の理解を深めるために会の集まりなどで周知・徹底を行いました。

５．防災計画

・令和６年６月 22 日　大雨による洪水の避難訓練(車で白石総合センターへの避難)

・令和６年８月６日　地震避難訓練　　・令和６年 12 月 26 日　火災避難訓練

６．日課

学校からの送迎後、手洗い・消毒、バイタルチェックを行いました。

毎日ソーシャルスキルトレーニングの時間を取り入れ個別の支援計画や課題に応じた訓練を実施しました。特性に応じてパーテーションで区切った個室で宿題等をしたり、知育ゲーム・玩具を友達と一緒に楽しまれたり、平日や休日は外に出て集団遊びをしたり、各々が好きなことをして過ごせるように環境の調整を図りました。

７．利用実績

①　利用契約児童数　　契約児童総数　29 名

小学部	中学部	高等部
29 名	0 名	0 名

②　利用実績児童数（令和６年４月～令和７年３月）

年　月	延べ利用者数	１日平均利用数
令和６年４月	216 名	8.3 名
令和６年５月	243 名	9.0 名
令和６年６月	236 名	9.4 名
令和６年７月	242 名	8.9 名
令和６年８月	195 名	8.8 名
令和６年９月	219 名	8.7 名
令和６年 10 月	230 名	8.5 名
令和６年 11 月	215 名	8.6 名
令和６年 12 月	185 名	7.7 名
令和７年１月	183 名	7.6 名
令和７年２月	178 名	7.4 名
令和７年３月	217 名	8.3 名
	合計　2559 名	平均　8.4 名

令和６年度　新グループホーム「ほっとハウス福田」建設事業報告

１．事業運営報告

① 佐賀県障害福祉施設整備補助の交付決定を受け建設計画に着手しました。

② 令和７年２月 28 日に新グループホーム「ほっとハウス福田」が竣工し、開設準備を行いました。

③ 令和７年４月１日より「ほっとハウス福田」の運営を開始しました。

2．行動報告

令和６年３月	建設用地の造成工事業者入札
	造成並びに建設に係る資金融資の入札
	令和５年度佐賀県障害福祉関係施設整備費補助金補正予算交付決定
令和６年４月	建設用地造成工事着工
令和６年８月	建設用地造成工事完了
令和６年８月	建設業者選定のための一般競争入札
令和６年９月	新グループホーム「ほっとハウス福田」建設工事着工
令和７年２月	新グループホーム「ほっとハウス福田」建設工事竣工
令和７年３月	新グループホーム「ほっとハウス福田」竣工式
	新グループホーム「ほっとハウス福田」内覧会
令和７年４月	新グループホーム「ほっとハウス福田」運営開始

令和６年度　日中一時支援事業報告（案）

1　運営基本計画

利用者ひとりひとりの個性と家庭の教育方針を尊重し、生活習慣の確立及び機能の向上に心がけ、明るく楽しい施設運営に努めました。

2　利用者の処遇

すべての利用者を平等に処遇し、趣味の活動や娯楽を通して将来の自立に向けた生活習慣の指導・訓練と ADL の向上に努めました。ショートステイ利用後、登校前支援としてうれしの特別支援学校への朝送りに対応しました。

3　利用者実績

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
登校前支援	4	6	2	4	1	5	5	2	5	4	6	1	45
日中支援	162	167	146	160	109	144	177	145	124	114	135	146	1729

4　環境整備

前年度に引き続き、感染症予防に心がけ、施設内清掃と利用者周辺の整理整頓に心がけました。食事やおやつ前には手洗いを促し、利用前、利用後には手すり椅子、テーブルなどのアルコール消毒を励行するなど健康保持に努めました。

5　防災計画

年 2 回、令和 6 年 7 月 31 日、令和 7 年 2 月 20 日施設内他事業と合同で火災を想定した利用者を含めた避難誘導訓練を行いました。計画的に実行し、今後の対策と反省点などを職員全体で共有できました。

6　日課

平日　学校の下校に合わせて送迎車で施設へ移動
　　趣味活動　　15：30～18：00（保護者迎えまで）
　　帰宅（事業所送り）　通常 17：00 事業所発
　　帰宅（保護者迎え）　通常 18：00 まで
土曜　祝祭日　学校休業日　　受け入れ時間　9：00～17：00

7　職員研修

内部、外部の研修に積極的に参加し、職員全体会議で伝達報告を実施することにより事業全体の資質の向上と統一した支援に努めます。